

## 第 1 回総合計画審議会（R2.2.4）におけるご意見と回答

基本構想 項目	意見内容	回答
5 ページ 計画策定の目的	「本市が独自性や創造性を発揮し」という表現があるが、「多様性」と「持続可能なまちづくり」という文言は非常にポピュラーというか、これからのまちづくりで求められる考え方ではないかと思う。そのような中で、できれば「多様性」も入れて欲しい。	「本市が独自性や創造性を発揮し、地域を牽引する中核的な都市として持続的に発展していくためには」を、「本市が独自性や創造性を発揮するとともに多様性を尊重し、地域を牽引する中核的な都市として持続的に発展していくためには」と修正します。
5 ページ 計画策定の目的	3 段落目に「特に若い世代の希望に応えられる施策について、」とあるが、「若い世代」はどこまでを指すのか。それによっても随分変わってくる。一般的な言い方でも 10 代なのか 20 代なのか 30 代なのか違うし、世代間で住みやすいと評価されている部分も違う。	<p>【当日回答】 第五次総合計画における「若い世代」は 15～39 歳を想定していますが、第六次総合計画でもこの想定を継承していくかは決定していません。</p> <p>【追加回答】 第六次総合計画においても、「若い世代」を定義付けし、目標値として管理していくかは今後検討してまいります。位置付ける場合は、新たな成長戦略として位置付ける「次期まち・ひと・しごと創生総合戦略」における位置付けとします。</p>
5 ページ 計画策定の目的	1 段落目、2 段落目で背景について書かれていて、3 段落目、4 段落目で背景に対する本市の取組や課題を伝えているかと思う。人口減少のことが一番に出ているので、おそらくこれが一番重要なのではないかと思ったが、それに対する取組としては、「重点的に取り組み、成果が見え始めてきた」であるとか「着実に進んでいる」という部分から、解決が進んでいるような印象を受けてしまう文章になっているので、実際はどうかかということが気になった。 また、最後の段落で「このような中、本市が独自性や創造性を発揮し」とあるが、と言いながら SDGs といった一般的なものを指針にして取り組んでおり、もう少し独自性や創造性が最初の議論の中で垣間見ると、目的に対して中身が伴っているように見えるのではないかと思う。	人口減少については、平成 30（2018）年度末の実績を見ると、第五次総合計画における人口推計の高位推計（出生率が向上し転出超過にある程度歯止めをかける好ましいケース）を上回っており、人口減少の抑制に対する成果が見え始めてきたところではあります。一方で、18～22 歳の転出超過は止まらず、出生数が 1,700 人を切るなど課題は残されています。このため、第六次総合計画では人口減少を少しでも抑制するとともに、人口減少社会に適応したまちづくりを進める必要があります。 また、SDGs については“世界共通のものさし”と言われており、SDGs との紐づけを行うことにより、本市の総合計画をより理解しやすくなると考えています。

基本構想項目	意見内容	回答																																																																		
7 ページ 時代の展望	<p>課題として「少子高齢化と人口減少」が取り上げられているが、どういうまちづくりをしていくかに関しては、この視点が緩くなってしまっている。一番の課題についてどうしていくのか、という方針をもう少し打ち出した方がよい。「まちづくりの視点」を見ると、やはり特色がないというか、間違っていないと思うが一般的で特色がないという感じがどうしてもある。</p>	<p>ご意見のとおり、「少子高齢化と人口減少」が一番の課題であると認識しています。しかしながら、人口減少に特効薬はなく、7 つ全ての視点でまちづくりを長期的にバランスよく進め、魅力的なまちとなることが、大切であると考えています。このため、各視点においては「少子高齢化と人口減少」に直接触れてはいませんが、視点を緩くしているわけではありません。</p> <p>また、「まちづくりの視点」は、10 年先、さらにはその先の未来に向けての長期的なものであるとともに、市政全般を大きく7つの分野に分け、その方向性をお示ししています。本市としての特色は、今後お示しする基本計画の中で具体的な施策として記載します。</p>																																																																		
11 ページ 市民意識調査	<p>「特に若い世代の希望に込められる施策について重点的に取り組み」という記載があるが、「市民意識調査」の回答者の属性を見ると若い世代の回答が少ない。この回答割合だと誰にとって住みやすいまちなかが分かりづらい。詳細な分析をしているのかもしれないが、資料だけでは若い世代に対する施策に対してどのように結果が出ているかは読み取りづらいと感じた。</p>	<p>年代別の回答データは、10～30 代の回答が全体の 21%であり、各年代において「住みやすい」という答えが最も多くなっています。</p> <table border="1" data-bbox="1240 730 2116 1230"> <thead> <tr> <th></th> <th>調査数 (人)</th> <th>住みやすい (%)</th> <th>住みやすい (%)</th> <th>いどえちなら いと も (%)</th> <th>住みに くい (%)</th> <th>住みに く ん い (%)</th> <th>無回答 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全 体</td> <td>1,654</td> <td>7.4</td> <td>59.3</td> <td>25.5</td> <td>6.0</td> <td>1.3</td> <td>0.5</td> </tr> <tr> <td rowspan="7">年 代</td> <td>10代</td> <td>18</td> <td>11.1</td> <td>55.6</td> <td>22.2</td> <td>11.1</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>20代</td> <td>120</td> <td>10.8</td> <td>50.8</td> <td>26.7</td> <td>10.0</td> <td>1.7</td> </tr> <tr> <td>30代</td> <td>210</td> <td>4.3</td> <td>62.9</td> <td>24.8</td> <td>6.2</td> <td>1.4</td> </tr> <tr> <td>40代</td> <td>290</td> <td>7.6</td> <td>60.0</td> <td>26.9</td> <td>4.8</td> <td>0.7</td> </tr> <tr> <td>50代</td> <td>323</td> <td>6.5</td> <td>55.1</td> <td>31.3</td> <td>5.0</td> <td>2.2</td> </tr> <tr> <td>60代</td> <td>325</td> <td>4.9</td> <td>58.2</td> <td>27.7</td> <td>7.4</td> <td>0.9</td> </tr> <tr> <td>70代以上</td> <td>355</td> <td>10.1</td> <td>65.6</td> <td>17.5</td> <td>4.5</td> <td>1.4</td> </tr> </tbody> </table> <p>第五次総合計画では、若い世代の人口確保を最上位目標としており、平成 30 (2018) 年度末において、実績が目標値を上回っていることから、11 ページにおいて「成果が見え始めてきたところ。」と記載しています。</p>		調査数 (人)	住みやすい (%)	住みやすい (%)	いどえちなら いと も (%)	住みに くい (%)	住みに く ん い (%)	無回答 (%)	全 体	1,654	7.4	59.3	25.5	6.0	1.3	0.5	年 代	10代	18	11.1	55.6	22.2	11.1	0.0	20代	120	10.8	50.8	26.7	10.0	1.7	30代	210	4.3	62.9	24.8	6.2	1.4	40代	290	7.6	60.0	26.9	4.8	0.7	50代	323	6.5	55.1	31.3	5.0	2.2	60代	325	4.9	58.2	27.7	7.4	0.9	70代以上	355	10.1	65.6	17.5	4.5	1.4
	調査数 (人)	住みやすい (%)	住みやすい (%)	いどえちなら いと も (%)	住みに くい (%)	住みに く ん い (%)	無回答 (%)																																																													
全 体	1,654	7.4	59.3	25.5	6.0	1.3	0.5																																																													
年 代	10代	18	11.1	55.6	22.2	11.1	0.0																																																													
	20代	120	10.8	50.8	26.7	10.0	1.7																																																													
	30代	210	4.3	62.9	24.8	6.2	1.4																																																													
	40代	290	7.6	60.0	26.9	4.8	0.7																																																													
	50代	323	6.5	55.1	31.3	5.0	2.2																																																													
	60代	325	4.9	58.2	27.7	7.4	0.9																																																													
	70代以上	355	10.1	65.6	17.5	4.5	1.4																																																													

基本構想 項目	意見内容	回答
17 ページ まちづくりの 視点	「ささえる」に記載されている「障害」という文字について、害の字が使われており法律の条文上は今でもこうなっているが、国会や中央省庁ではひらがなを使っている。最終的に計画書になるのであればそういった部分にも配慮した方がよいのではないか。	<p>【当日回答】 各所と調整しながら、諸々他の計画にも影響がある所でもあるので、検討させていただきます。</p> <p>【追加回答】 本市における計画や組織の名前などについては、現時点では法律の文字に合わせるという方針としています。しかしながら、「障害者」を「障害のある方」と表記する場合があります。 総合計画の文中では、「障害者」は「障害のある方」とし、「障害」だけで使う場合はそのままの記載とします。</p>
17 ページ まちづくりの 視点	「SDGs の目標達成に向けた取組を進めていきます」とあるが、7つの「まちづくりの視点」が、SDGs の17 目標のどれに当てはまるのかを明記していただきたい。	「まちづくりの視点」は市政全般を大きく7つの分野に括っているため、17の目標を割り振ると1つの視点に対して、多くの目標が当てはまり、なぜその目標がこの視点に当てはまるのかが分かりづらくなることから、今後お示しする基本計画で記載する施策ごとに、その施策が17目標のどれに当てはまるのかを位置付けていきます。
18 ページ まちづくりの 視点	富士市に生まれ育ち、これから大人になっていく子ども達が、富士市から出て行ってしまふことを出来るだけ留めるために、富士市の魅力を子どもたちにも発信していきたい。 現在、少子化に伴い小中学校の環境は大きく変わっており、小中一貫教育や地域を巻きこんだ適正規模の話もあるため、子ども達にも訴えることが出来るよう計画にも入れていただきたい。例えば、「まちづくりの視点」の「つなぐ」という部分でも、小中連携として小学校と中学校が繋がり、そこから高校にも繋いでいけるような、教育面についても考えていただければと思う。	子ども達の郷土愛（シビックプライド）を醸成することは重要であると考えているため、各年代を対象に、現在もいくつかの取組を行っており、今後も継続していく予定です。 「つなぐ」については、今後お示しする基本計画において全体の施策体系を確認していただくこととなりますが、小中学校の施策については、「まちづくりの視点」では「はぐくむ」に記載しており、対応する基本目標が「次代を担うひとを育てるまち」となります。その下の教育に関する具体的な施策の中で、小中一貫教育や適正規模・適正配置などの取組について位置付けていきます。

基本構想 項目	意見内容	回答
19 ページ めざす都市像	今後審議を続けていく中で変わっていく可能性はあるのか。あまりに抽象的すぎるため、個人的には変えた方がよいと考えている。それを具現化していくのが他の言葉だとは思いますが、小さな子どもから高齢者、富士市に住む外国人の方までよく分かるように、一番の目標はもっと具体的で、実現しやすいものにした方がよいのではないかと。	<p><b>【当日回答】</b> ご意見として承り検討しますが、「めざす都市像」は市民意見や庁内の検討を経てお示ししています。多くの皆さんの思いがあるため抽象的にせざるを得ない部分もあり、ここから具体的な基本目標や施策を打ち出し、実際に行っていくものを掲げていきます。広く、富士山や未来につながるまち、10年後には未来が開けていると提供いただけるようなまちにしたいという思いで、「未来」や「拓く」という言葉を使っています。</p> <p><b>【追加回答】</b> 総合計画は、「市民や事業者、行政が共通して目指すまちづくりを進めるための指針」となるものであります。このため、将来のまちの姿を表す「めざす都市像」も、各主体が共有し共感できるものである必要があり、具体的な表現ではなく、誰もがそれぞれ持っている将来都市像をイメージし共感できる包括的な表現にする必要があります。 こうした中、市民意見や庁内での議論を経て設定されたものでありますのでご理解いただきたく存じます。 「めざす都市像」を具現化していくために7つの基本目標があり、その下に具体的な施策を位置付けていくため、計画全体をご覧いただいたときに最終的に「めざす都市像」につながるものとなるよう策定していきます。</p>
20 ページ 施策の大綱	「様々な社会課題の解決に繋がるIoT、ロボット、人工知能(AI)など新技術の導入や活用促進を図っていきます」について、7つの施策の大綱に対して、新技術をどのように導入していくのかということがイメージできる記載があるとよいと感じた。	国が主導してSociety5.0の実現に向けて取り組んでいますが、現時点では各施策の大綱の中で、具体的な導入方法のイメージまで記載できる段階ではないと考えています。 しかしながら、今後お示しする基本計画の第3部「総合計画の推進にあたって」の中の「計画を推進するための取組」では、スマート自治体に向けた取組がイメージできるように記載する予定であります。

基本構想 項目	意見内容	回答
21 ページ 施策の大綱	<p>全体的に SDGs は市だけでなく、もう少しグローバルな視点で、世界的に貢献できる富士市ということ打ち出した方がよいのではないかという印象を持った。富士市という「紙のまち」というイメージがあるが、公害を乗り越えて今のまちの形があるので、製紙というものについても一度見直す。市内大手の製紙会社が特許を持っている CNF という、石油由来ではなく植物由来の製品を作り出せるような技術が開発されているので、そういったものをもっと生かせるよう考えていくとよいと思う。特に、7つの基本目標の中の「活力を創り高めるまち」に「既存産業の活性化支援や産学官の連携による新産業の創出を図る」と書かれているが、具体的に既存産業をいかに生かしていくのか、また、環境に配慮した産業に展開していくことで、さらに世界へ発信していくよう力を入れていくとよいのではと感じた。</p>	<p>CNF の活用や既存産業を生かした具体的な取組については、今後お示しする基本計画での位置付けを検討していきます。</p>
20～22 ページ 施策の大綱	<p>基本構想はよくまとめておられると思う一方で、他の都市でも通用するような基本構想ではないかと思う。</p> <p>毎週のように新幹線や飛行機から富士山を見ているが、富士市のまちから見る富士山と全然違う。ほとんどの国民が見るのはポスターや写真の遠くの綺麗な富士山であり、生の富士山を知らない。そうした人達へ富士市がどうアピールするか。富士市であるので、富士山を世界にどう知ってもらうか。</p> <p>公害の克服についても PR すべき。</p> <p>せっかく富士山が世界遺産になったが、75 億の世界の人にどうアピールするかまで伝わってこない。</p> <p>今回コロナウイルスで色々問題になっているが、問題になった地域に静岡県は出てこない。京都から山梨、神奈川、東京と、静岡は通り過ぎている。800 万人の中国人が静岡を通過しており、それももったいない。25 万人の市民が世界に情報を発信するという目標を持ったらどうか。みんながそれについて、何をしなければならないかが明確になる。</p> <p>都市像の中に富士山とあるが、大綱の文章内でも富士山をイメージ・PR できるようにするということ。</p>	<p>他の都市でも通用するような基本構想ではないかという点については、安全・安心や子育ての分野などは、他の自治体でも最優先で取り組んでいるものであるため、基本構想の中では独自色が出しにくい分野であります。</p> <p>基本構想では、市政全般を 7つの分野に分けて、その方向性を示しているものでありますが、具体的な内容については、今後お示しする基本計画の各分野の中で記載していくため、本市の魅力である富士山の活用やシティプロモーションについても、その中で示していきます。</p>

基本構想 項目	意見内容	回答
-	<p>だいぶ前に、高校生とその親のアンケートを見たことがある。行政としては、大学を卒業したら富士に戻ってきてほしいという思いがあるが、親としては、「富士に戻って来てどこで仕事をするのか、何も無いのに戻って来いという方が無理ではないか」という意見があった。そういったものを少しでも無くすためには、例えば、産業の面であれば、「富士はこういう方向へ行きますよ。ここを伸ばしますよ。」ということを示すことができればと思う。</p> <p>また、富士市に住んでいると富士山が見えるのは当たり前だが、外から来た人は、富士山はすごいものだと思っている。</p>	<p>今後お示しする基本計画の中で、今後の産業分野に関する具体的な取組を記載していきますが、雇用を生み出すだけでなく、若い人が魅力を感じる職場づくりや、子どもの頃から郷土愛を醸成するような教育が必要であると考えています。</p> <p>また、富士山活用についても、基本計画の中で具体的な取組を記載していきます。</p>
-	<p>SDGs のアイコンを入れていくということだが、アイコンを使用していくのであれば、どれもつながっているというイメージで考えた方がよい。例えば、「まもる」について、台風や豪雨などは更に色々なことに繋がってくるため、ひとつには限定できない。位置付けていくからには慎重に位置付けていくとよいと思う。また、位置付ける過程の中で色々なことを議論して考えていくことが、富士市の中でSDGs を打ち出していく深まりにも繋がっていくと思う。</p>	<p>SDGs については、今後お示しする基本計画において、各施策との紐付けを表すことを考えています。</p> <p>紐付けの際には、ご意見を参考にし、慎重に検討していきます。</p>
-	<p>この審議会委員になったことに責任を感じている。なぜかと言うと、富士市は住みにくいところだという声が聞こえることをよく知っているから。先ほど第一次から第五次まで計画があったということをお教えたいただいたが、この場に参加するうえで、今まで計画を立てて上手くいかなかった点や失敗や反省した点のような資料があれば提供して欲しい。計画を立てた以上は立って放しということはよくないし、計画を立てたけれど上手くいかなかったとか、途中で修正したといった、反省や失敗の教訓を生かすことが今後の計画を立てるためには必要だと考える。失敗の例や計画が上手くいかなかった点について、資料として残っていれば提供していただいて、計画を考えていくうえで参考にしたい。</p>	<p>第五次総合計画の前期5か年の評価は、第1回目の本審議会で配付しました「第五次富士市総合計画 後期基本計画」冊子の4ページから11ページにかけて掲載しております。</p> <p>また、<b>資料2</b>として配付いたしました「第五次富士市総合計画における市民満足度調査の結果（平成30（2018）年度）」をご参照ください。</p>

基本構想 項目	意見内容	回答
-	<p>人を増やすためには産業が必要だが、実際には工場が減ったり、企業が減ったりしている。そうすると、インフラコストが高くなる。企業においても、上水道・下水道等、いろいろな意味でのインフラコストが上がっている。そうした時に計画で、官民でインフラをやりますと言っても、具体的にどうするか。インフラで競争力がなくなっている時にどうするのかということは真剣に考えなければならない。富士山は元々、温暖な気候と豊富な地下水をもって紙産業が始まったが、現在は水が高いということで競争力が無くなっている。現実を見てどうするのかということを考えていかないと、企業誘致と言っているだけでは企業は来ない。誘致する企業よりも、そこにいる企業をどう維持させるか、競争力を上げさせるかということも、行政としては知っておいていただきたい。そういうことを言うと「県の問題です」「国の問題です」という意見が出てくるが、そこをやっぱり一番責任があって差し迫っているのは市なので、その問題意識は市が持っていて欲しい。</p>	<p>今後お示しする基本計画の中で、既存企業に対する支援についても記載していくため、参考にさせていただきます。</p>